

## 内容評価基準報告書

評価	A-1-(1) 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整備している
<b>【講評】</b> 当学童クラブは、昭和52年に開設されており、施設の老朽化などについて職員からも多くの指摘がありました。しかし、施設内は非常に整理整頓が行き届き、砂ぼこりに悩まされてはいるようですが、職員の徹底した清掃などが功を奏し非常に清潔感がありました。建物の敷地内には、庭もあり、ドッジボールを楽しんだり、庭で収穫した果物を食べられたりと外で遊ぶ楽しみもあります。当クラブでは子どもたちの安全確保、衛生管理を最優先として、子どもたちが快適に過ごせるようハード面での大変さを工夫しながら環境整備に取り組んでいます。	
評価	A-1-(2) 放課後児童クラブにおける育成支援
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子どもが放課後児童クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している
<b>【講評】</b> 当クラブでは、何かしらのイベントを設けて子どもが楽しく通うことができるよう工夫をしています。特に長期休みには様々な企画が設けられています。工作や庭での外遊び、マンガを読んだり、けん玉でできる技が増えたりと子どもにとっての楽しみがたくさん用意されています。こういったことから、子どもたちのクラブに対する満足度も9割が通っていて「とてもよかった」「よかった」と回答しています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②子どもの出欠席を把握し、適切に援助している
<b>【講評】</b> それぞれの学年によって、クラブへ来る時間は異なりますが、予定の時間を過ぎた場合などには学校へ行き確認をしたり、同じ学年あるいはクラスの子の様子を尋ね所在を確認しています。また、クラブ内の黒板には帰る時間もそれぞれ異なりますので帰り道のルートごとに時間と名前を書き、それぞれの職員が見落としがないように確認をすることができます。時間の変更があった際には、必ず記録をして共有をしています。	
評価	A-1-(3) 子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるように援助している
<b>【講評】</b> 子どもが自由にクラブで過ごすことができるよう、クラブの特徴としてもあげられている、1日の予定や月の予定、行事に向けての取り組み等がクラブ内には貼りだされています。こういった掲示物によって「今日は何をしよう」「来週はこんなことができるかな」といった自分でスケジュールを組み立てることができ、通うことへの楽しみにもつながっているものと思われます。保護者からも「子どもが楽しみに通っている」「様々な企画を立ててくれてそれが子どもの楽しみになっている」といった声が多く寄せられています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるように援助している
<b>【講評】</b> 子どもがクラブへ来たときには「ただいま」帰るときには「さよなら」と職員に挨拶をする習慣があります。おやつときには選ぶ個数は決められていますが好きなものを取ってもらいます。基本的にクラブでは縛りを設けることなく、子どもの自主性を尊重していますが、挨拶をはじめとした生活習慣を身に着けることにより、社会的なマナーも育まれていくものと思われます。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	③子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している

【講評】 当クラブでは、1～4年生の子どもが利用しています。それぞれにグループ編成を取り入れ、異学年の子どもたち数名で構成されています。クラブでの活動で明確にグループ単位で動くことはありませんが、同じグループのメンバーとして上の学年の子から学び、下の学年の子を気遣うといったことが自然に育まれるものと思われます。また、遊びは自由に選択することができ本人の意思を尊重しています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	④子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している
【講評】 比較的、当クラブでは元気な子どもが多いようです。中にはこういった雰囲気になじめない子どももいるかと思われます。元気な子どもには目が行きがちで、どうしても飲み込まれてしまうといったこともあるかもしれませんが、子どもをひとくくりで見のではなく、一人ひとりの子どもたちの個性を尊重して、自分らしさを大切にできることを念頭に置いて支援をしています。また、子ども同士でトラブルがあった際には、お互いの言い分を聞き取り、その日のうちに迅速に解決できるよう努めています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	⑤子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している
【講評】 行事や遊びなどには、できるだけ子どもの意見を取り入れていくことを当クラブとしては取り組んでおり、子どもとの話し合いの機会を設けています。しかし、自分の意見を積極的に言える子どもとそうではない子どももいます。そのため、貼り紙などに書いてもらい意見を聴取しています。人前で意見が言えない子どもにとっては、自分を主張するよい機会でもあります。	
評価	A-1-(4) 固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている
【講評】 そういった子どもにも対応できるよう研修などに参加することで知識を高め、理解を深めています。また、必要に応じて関係機関とも連携できる体制も構築されています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を踏まえ、育成支援を行っている
【講評】作業療法士が定期的にクラブを訪問し、子どもの様子などを観察しながら職員とともに情報共有をしながら、考察する機会を設けています。さらに、職員会議で事例などを検討し、配慮が必要な子どもへの対応に備えています。配慮が必要な子どもに対しては、個別計画を策定しPDCAサイクルに沿って実行するシステムも構築されています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	③特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たって、関係機関と連携して適切な支援を行っている
【講評】 学校に併設されているクラブではないため、日常的に学校との連携はとりにくい環境ではありますが、配慮が必要な子どもがいる場合には学校との強固な連携は欠かせません。こういった状況がある場合には、環境の変化が子どもにとって最もダメージが大きいものと考えられますので、学校生活との連続性がある生活となるよう環境整備をする仕組みは整えています。	
評価	A-1-(5) 適切なおやつや食事の提供
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①放課後の時間帯におやつを適切に提供している
【講評】 おやつは、数は決められていますが自分で選んで取る形式になっています。また、食材のアレルギーがある子に対しては、「おやつチェックリスト」を作成して安全性が確保できるよう配慮されています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②食に伴う事故（食物アレルギー事故、窒息事故、食中毒等）を防止するための対応を行っている

**【講評】**

上記の通り「おやつチェックリスト」を作成したり、アレルギーのある子どもには危険因子となる食材がわかるように一覧表を作成しています。また、事故などが起こった際の緊急時の対応についても掲示されています。マニュアルなども整備して、食に対する事故を防ぐため、徹底した管理がなされています。

評価

A-1-(6) 安全と衛生の確保

あり なし

①子どもの安全を確保する取組を行っている

**【講評】**

利用開始時には、法人で作成した「児童安全のために」の冊子が作成されており保護者に配布されています。冊子の内容は「台風・悪天候（運動会中止等）の場合」「大規模地震に備えて」「不審者（防犯）対策」「健康・安全」「一斉下校・集団下校について」など5項目にわたり、対応などについてまとめられています。また、日が短くなるころにはシルバー人材の方が子どもたちの帰路の見守りを行ってくれます。職員も帰宅時には、途中まで子どもたちの姿を見守っています。

あり なし

②衛生管理に関する取組を適切に行っている

**【講評】**

学校生活を送る中で、感染症の蔓延はどうしても避けられないことです。コロナやインフルエンザなどの予防として当クラブでも手洗いや消毒を徹底しています。訪問時にもテーブルや遊具などの消毒を職員が徹底している姿も見られ、衛生管理に注意をはらっている様子がうかがえました。

評価

A-2-(1) 保護者との連携

あり なし

①保護者との協力関係を築いている

**【講評】**

保護者とは、連絡帳で子どもの様子をそれぞれで共有しています。また、お迎えに来たときに時間があれば子どもの様子などを伝えることもあります。保護者からは、連絡帳に非常の細かく書かれているとのコメントもあります。また、擦り傷や具合が悪くなった時の対応が迅速であるとの回答もあり、クラブの日ごろの取り組みが、保護者に高く評価されていることがコメントからうかがえます。

評価

A-2-(2) 学校との連携

あり なし

①子どもの生活の連続性を保障するため、学校との連携を図っている

**【講評】**

前述したとおり、建物が学校と少し離れているため、連携といった面からは若干希薄なところもありますが、関係性は良好なようです。子どもたちは建物に併設された庭で遊ぶこともありますが、放課後や長期休みの際には学校のグラウンドを利用することができ、庭ではできないサッカーなどを楽しむこともできます。運営委員会では、安全に子どもが過ごすことができるよう話し合いを行っています。

評価

A-3-(1) 子どもの権利擁護

あり なし

①子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている

**【講評】**

法人で示す基本方針には「子どもが自分の思いを出せる場であること。みんなが自分をさらけだしながら成長し合える場所であること」を掲げています。こういった中で、当クラブでも子どもを集団生活の中でひとくくりに見るのではなく、できること、できないこと、得意なこと、不得意なことすべてを把握し、その子どもが快適にクラブでの時間を過ごすことができる環境づくりに取り組んでいます。行事や遊びにも子どもとの話し合いの場を設け、それぞれの意見を反映させる取り組みも子どもの権利を十分に尊重している現れです。